

紫波町農業委員会 佐比内地区 農地利用最適化推進班活動事例

高齢化後継者が少ない地域で、
農地利用最適化を進めていくために

紫波町佐比内地区推進班の紹介

【担当委員名】3名

農業委員 百済 和至

推進委員 堀切 一 畠山 佳正

【対象集落名】佐比内地区

紫波町の旧村単位で区分け

紫波町佐比内地区の紹介

- ・紫波町の南東に位置し、中山間地域で自然が豊か
- ・主に水稲と果樹(ぶどう・りんご)の栽培が盛ん



紫波町佐比内地区の抱える課題

- ・深刻な高齢化と世帯数の減少
- ・後継者不足により年々増える遊休農地
- ・中山間特有の地形のため、農地中間管理機構を利用しにくい

佐比内地区のマスタープラン

- ・農地利用の最適化のために、マスタープランを参考に計画を立てる
- ・担い手経営体のリストはあるが、何年か内容更新されていない
- ・さらに農地の出し手については記載がなかった

佐比内地区推進班の活動目標

- ・各地区の農家組合や、営農組合、生産組合を通して意向調査し、出し手の掘り起こしを行う
- ・新たに受け手になる担い手経営体を聞き取りを通して発掘する
- ・意向把握から得られた情報をもとに、個別訪問による情報収集を行う

佐比内地区推進班の活動計画

- ・地域や役場農林課などと連携し、マスタープランの検討会を行う

- ・今後、営農継続が懸念される農業者の意向把握

意向把握カードを作り、出し手の農業者に記入してもらい出し手の見える化をする

リストアップ期限 12月31日

訪問活動計画期限 3月31日

- ・意向把握から得られた情報をもとに、個別訪問による情報収集を行う

活動状況において

- ・営農組合、農家組合、産直組合などに活動趣旨を説明しながら、寄せられた案件に対し、現地確認と意向把握カードへの記入を
してもらっている
- ・意向把握カードは、農業会議から春に配布された参考資料を元に
聞き取り内容や言葉を若干変更し使用している

活動の内容(1)

とにかく高齢者は農地の問題の相談先がわからない



各組織の組合長などに、活動趣旨を各々で知らせる



実際の相談が、組合長などに寄せられたときに、
推進班へ相談をつないでもらえるようにする

※一番の課題は、農地の相談は、農業委員会にしてもらえるようにする

現地活動について

- ・10月末現在、1件の聞き取り現地確認を行っており、秋以降には2件の聞き取りを行う予定になっている
稲刈りが終わって落ち着けば、案件はもう少し増えると思込まれる
- ・これらの情報を集計し、マスタープランへの反映や、近隣農業者と相談し農地利用されるよう取り組みたい

成果と課題及び、今後取り組みについて

- まだ成果と言えるものはないが、出し手の掘り起こしを行いスムーズな農地利用につなげたい、また地域への啓発活動にもなると考える
- 現在の受け手だけでは到底カバーできないので、新たな担い手育成や、新規就農者を増やし、経営体数も増やすことが課題
- 長年遊休農地になり、山林化している農地も多くあり、これを現地確認し、適正に農地判断を行っていききたい